令和２年度石教研国語(小)部会

**研究ガイド**

令和２年６月発行　 編集・文責：部会研究員 福島　剛(松恵小）

第２７期の研究において1年次目は、文学的文章教材を切り口に多様な表現活動の実践、２年次目は、説明的文章教材における「表現活動」場面を意識した授業づくりを進めていただき、大きな成果を上げることができました。第２８期の研究主題は、『考えの形成につなげる新しい時代の国語教育』となりました。本来であれば、様々な実践例を集め、研究を進めていく予定でした。しかし、新型コロナウィルスの影響でこれまでのような研究体制を取ることは難しいと考えました。そこで、今年度は、市町村ごとに指導案を作成し、研究を進めていく形となります。（詳細は、「はまなすNo.2」をご覧ください）

指導案形式については、「考えの形成」につなげるための学習内容を明確化するようにしました。そして、「主体的・対話的で深い学び」について考察し、指導計画のどこでどのように学ぶか記述するようにしました。今年度の状況では、指導案どおりの授業を展開することは難しいと考えますが、

共同研究のあゆみを止めないで、進めていただきたいと思います。

（参考）

令和２年度の研究について

Ⅰ　研究主題

「考えの形成につなげる新しい時代の国語教育」

Ⅱ　研究仮説

指導事項や学習内容を明確にし、学習過程を工夫することにより、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深められる児童を育てることができる。

Ⅲ　研究領域

「読むこと」領域の「構造と内容の把握」「精査・解釈」場面

Ⅳ　研究の柱

（１）「構造と内容の把握」「精査・解釈」における文章理解を高めるための指導事項

（２）文章理解を深めるために効果的な「主体的・対話的で深い学び」

Ⅴ　研究方法

（１）令和２～４年度の３カ年計画で行う。

（２）中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。（令和２年度は、市町村ごとに指導案検討を行い、各ブロックでまとめた指導案を事務局に提出する）

（３）各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。

（４）実技理論研修会を開催する。（令和２年度は、行わない）

***１．指導案の統一形式***

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

第○学年　国語科学習指導案

今年度は、日時・児童指導者を明記せず、作成者のみとする。

作成者　○○小　○○○

１，単元名「○○○○」　教材名「○○○○」

「主たる目標」：学習全体を見通して、「知識および技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」について示して下さい。

２，単元の目標

３，評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 学習指導要領〔知識及び技能〕の内容を参考に記入してください。 | 学習指導要領〔思考力・判断力・表現力等〕の内容 C読むことの指導を参考に記入してください。 | 子どもたちの主体的に取り組む姿を観察できる評価規準を考えてください。 |

４，指導する学習内容・評価事項について

　（１）教材について

（１）文章の特色や文章構成について。

（２）学習全体を見通して「第２８期国語（小）部会指導事項例」を参考にしながら記入する。

（３）単元の中で「主体的・対話的で深い学び」をどのように位置づけるのかを記入する。

　（２）学習内容

　（３）主体的・対話的で深い学び

５，単元の指導計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時数 | 目　標 | 学　習　内　容★印で「主体的」・「対話的」・「深い学び」を明記。 |
| １ |  | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　★主体的 |
| ２ |  | ★ペア・対話的 |
| ３ |  |  |
| ４ |  |  |
| ５ |  | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　★深い学び「はまなすNo.1」第28期研究計画（案）に「主体的・対話的で深い学び」の位置づけについては、載せています。参照してください。書かれているので参考にして★を明記する。 |

６，本時について

（１）本時の目標

（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 教師のはたらきかけ | 留意点・評価 |
| 導入 |  | ※「はたらきかけ」と「主発問」を記載する。 |  |
| 展開 |  |  |  |
| まとめ |  |  |  |

（３）板書計画

７，資料～ワークシートなど

***２．指導案例（物語文）***

※上記の形式を踏まえ、ここでは、４年生の指導案を例として示します。

第４学年　国語科学習指導案

作成者　○　○　○　○

１，単元名「場面と場面をつなげて読み、考えたことを話そう」

教材名「白いぼうし」

２，単元の目標

（１）文章中に使われている語句を中心に、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を増やすことができる。

（２）場面ごとの人物の様子とその移り変わりをとらえ、行動や会話から人物の人柄を想像することができる。

（３）登場人物の人柄に着目して物語を読むことに関心を持ち、叙述をもとに考えたことを積極的に友だちと交流することができる。

　指導事項配列表にある「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」に沿った目標を設定する。

３，評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること（１）ク | 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることC（１）イ | シリーズの本からより多くの根拠叙述を見つけ、友だちと積極的に交流しながら松井さんの人柄をまとめようとしている。 |

４，指導する学習内容について

（１）教材について

・中心人物「松井さん」が白い帽子の中にいたもんしろちょうをにがしたことにより不思議な女の子と出会う。明確に語られていない女の子の正体、物語の中心軸となる松井さんの優しい性格などあまんきみこ氏の世界が展開されている。（以下省略）

（２）学習内容

 ・中心人物である松井さんの心情の移り変わりや性格を読み取らせたい。そして、読み取ったことをもとに、「車の色は空の色」シリーズの物語から松井さんの人柄を読み取る活動をとり入れたい。

・初夏を思わせる鮮やかな色彩が随所に描かれ、また作品全体をほのかな夏みかんの香りが包んでいる。場面の様子や人物の心情を想像するだけでなく、作品を彩る表現の工夫にもふれながら読み進めたい。

・中心人物である松井さんの心情の移り変わりや性格、情景（色彩語）などを読み取らせるために、地の文と会話文を意識させたい。

（３）主体的・対話的で深い学び

　　　・学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして児童自身の学びや変容を自覚できるような掲示物の工夫をしたい。また、学習課題に応じてグループサイズを運用し，自分の考えを広げたり深めたりできるようにしたい。そうすることで、物語を深く味わうことができる児童が育っていくと考える。そのためには、物語の展開だけでなく、「物語の特徴」も味わえるようになってほしい。この物語では、「中心人物の人柄」「ファンタジー構成」などにあたる。物語を読む際に「この物語にはどんな特徴があるのだろう、どんな効果があるのだろう」と考えながら読み、複数の資料（シリーズ本）や他の児童との交流によって物語の味わいを深めたい。

５，単元の指導計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時数 | 目　標 | 学　習　内　容 |
| １ | 本文を読み、同シリーズの登場人物の人柄を説明するという活動のめあてをもつことができる。 | 松井さんの人柄を考え、物語が、どのように展開しているのか、今後の見通しを持つ。　　　　　　　　★主体的 |
| ２ | 場面①から松井さんの性格や場面の様子を想像し、読むことができる。 | 松井さんの夏みかん（いなかのおふくろ）に対する思いをしんしとの会話から読み取る。　　　　　　　★対話的 |
| 　３ | 場面②から松井さんの性格や場面の様子を想像し、読むことができる。 | 松井さんの行動から、男の子を思う気持ちを読み取る。★対話的 |
| ４（本時） | 場面③から女の子ともんしろちょうが同一人物であることを読むことができる。 | 女の子の様子を読み取り、ちょうらしい表現を探してファンタジー作品のおもしろさをつかむ。　★ペア・対話的 |
| ５ | 場面④から松井さんの性格や場面の様子を想像し、読むことができる。 | 松井さんに「よかったね」の声が聞こえたのは、なぜかを考えながら読む。　　　　　　　　　　★ペア・対話的 |
| 　６ | 他の物語に出てくる松井さんの人柄を個人やグループで考えることで多面的に見ることができる。 | シリーズ本から松井さんの設定が分かる叙述をみつけ、人柄を書く。　　　　　　　　★グループ・対話的 |
| ７ | 考えが深まる相手を主体的に選んで、複数人とペア交流することで、より多面的に松井さんの人柄をつかむことができる。 | 他の物語の中心人物のエピソードとくらべることで、一つの物語では分からない松井さんの人柄をつかむ。　　　　　　　　　　　　★深い学び |

６，本時について

（１）本時の目標

　　「女の子」と「もんしろちょう」が同一人物であることを読むことができる。

（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 教師のはたらきかけ | 留意点・評価 |
| 導入 | 1. ②場面の松井さんの人柄を振り返る。（松井さんの性格行動、想像した心情など）2.学習課題を確認する。「女の子」が「もんしろちょう」だと思うところを考えよう。 | ○今までのノートなどをもとに学習を振り返らせる。 | ○児童が振り返りやすいように今までの学習を模造紙にまとめて教室掲示する。 |
| 展開 | 3.女の子の様子・会話が表されているところに線を引く。①「道にまよったの…。」②つかれたような声③「え-ええ、菜の花横町…」④後ろから乗り出して…⑤「早く、おじちゃん…」4.女の子の様子から、ちょうらしいとわかることを話し合う。（ペア学習）①人間があまり使わない表現。②誰かに追い回されたのかも。③自信がない感じ。④男の子をおそれている。5.もんしろちょうと女の子の登場場面を話し合う。・ちょうが、なみ木の緑のむこうに見えなくなってから女の子が登場した。・松井さんと女の子が話しているときには、ちょうは登場しない。・「よかったね。」と松井さんに聞こえたときには、女の子は、いなかった。 | ○女の子の様子・会話の部分に注目できるように線を引かせる。○迷っている児童には、会話文を　先に引くよう促す。○なぜ、女の子がそんな様子なのか想像しながらも、根拠があれば、話し合わせる。○もんしろちょうと女の子が重なって登場していないことを考えさせる。 | ○電子黒板を使って教科書のどこに線を引いたか明確にする。評「女の子＝ちょう」であることを根拠立てて発表している。○ちょうと女の子の登場場面が書かれているところを明確にする。 |
| まとめ | 6.女の子とちょうの関係についてまとめよう。7.どんな考えがあったか全体で交流する。 | ○パターンに当てはめてまとめを　書かせる。

|  |
| --- |
| 女の子は、　　～　　だからもんしろちょうである。 |

 | 評 自分の考えを理由づけして書くことができる。 |

（３）板書計画（省略）

７，資料～ワークシートなど（省略）

***２．指導案例（説明文）***

※上記の形式を踏まえ、ここでは、２年生の指導案を例として示します。

第２学年　国語科学習指導案

作成者　○　○　○　○

１，単元名「じゅんじょに気をつけて読もう」

教材名「たんぽぽのちえ」

２，単元の目標

（１）たんぽぽがどんな知恵を働かせているのかを読み取り、たんぽぽに興味を持ち、

　　 進んで読もうとしている。

（２）時間や順序や理由づけを示す言葉に着目し、様子とわけなどを考えながら読む。

（３）文の中における主語と述語との関係について理解する。

　指導事項配列表にある「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」に沿った目標を設定する。

３，評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 順序など情報と情報との関係について理解している。（２）ア | 「読むこと」において時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C（１）ア | 話題が同じ作品と比較し、内容や表現方法の共通点や相違点を進んで見つけて読むことをしている。 |

４，指導する学習内容・評価事項について

（１）教材について

たんぽぽという児童にとって身近な花が題材になっている点が、この教材の魅力の一つである。同時に、身近な花であっても、少し観点を変えると未知の要素がある。（以下省略）

（２）学習内容

 ・本教材には、「問いの文」がないため題名から問いの文をつくることができる。「どんなちえがあるのか。」その問いに対する答えは、様々な内容と数が出てくる。自ら解決するために時を表す言葉に着目し、時系列に沿って

　　　　「ちえ」とその「わけ」とを対応させながら因果関係を読み取らせたい。

・主語連鎖に着目してまとまりを捉えたり、様子と理由とを読み分けたりして、知恵の意味や数を明確にさせていきたい。

（３）主体的・対話的で深い学び

　　　　　児童にとって身近な植物であるたんぽぽを題材にした教材から、論理を読む力を身につけさせたい。学習を通して児童が時間的な順序や事柄の論理を読み取ることができるように「学習用語集」を活用し着目する言葉を明確にしていく。また、読み取ったことをグループで確認し合うことや他の文章を読んだ時に同じように目的意識を持って「説明文読み取りヒント集」などを作成するというゴールを明確にさせて読むことができれば「主体的・対話的で深い学び」になると考える。

５，単元の指導計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時数 | 目　標 | 学　習　内　容 |
| １ | 「じゅんじょに気をつけて本文を読もう」という学習めあてを持つことができる。 | 文章を読んで不思議に思ったことやおもしろかったことを発表し、興味・関心を持たせる。　　　　　　★主体的 |
| ２・３ | 時を表す言葉に着目させ、たんぽぽが変化する様子を読むことができる。 | 挿絵と時を表す言葉を結びつけながらたんぽぽが変わっていく順序に気をつけて読む。　　　　　★ペア・対話的 |
| ４～７ | 文末表現に着目させ、たんぽぽのちえとその理由を整理することができる。 | たんぽぽのちえと、その理由を分けてグループでワークシートに書く。　　　　　　　　★グループ・対話的 |
| ８（本時） | 文章全体を読み、たんぽぽがどんな順序でちえをはたらかせていたか理解することができる。 | 文章全体を読み、たんぽぽの様子と理由を関連づけながら、また比較しながら読み分けることによってちえをまとめさせる。　　　　　　　★深い学び |
| ９ | 他教材「たんぽぽ」から内容や表現方法の共通点を見つけることができる。 | 「たんぽぽ」と「たんぽぽのちえ」を比較して同じ所を発見させる。★深い学び |
| 10 | 学習を振り返り、説明的文章を読む時に気をつけることを「説明文読み取りヒント集」にまとめることができる。 | 二つの教材文を使って説明文の文章構成やスキルについてまとめる。 |

６，本時について

（１）本時の目標

　　「たんぽぽのちえ」を通して説明文の文章構成の特徴をつかむことができる。

（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 教師のはたらきかけ | 留意点・評価 |
| 導入 | 1. 「たんぽぽのちえ」で学習したことを振り返る。（時を表す言葉・「このように」など）2.学習課題を確認する。説明文がどのように組み立てられているか、考えよう。 | ○今までのノートなどをもとに学習を振り返らせる。 | ○児童が振り返りやすいように今までの学習を模造紙にまとめて教室掲示する。 |
| 展開 | 3.たんぽぽの４つのちえを意味段落ごとにまとめる。①種を太らせるちえ②種を飛ばすちえ③種を遠くに飛ばすちえ④天候によって綿毛の開き方　を変えるちえ4.①・⑩段落の必要性についてグループで話し合う。・①段落がなければ、何の話か分からない。・⑩段落は、「四つのちえ」からたんぽぽがどう生きているか書かれている。5.グループ発表6.段落の構成を整理しながら　文章の構造を理解する。 | ○②段落から⑨段落を板書し、意味段落に分けてまとめさせる。○様子と理由のつながりを意識させて考えさせる。○①・⑩段落の必要性について考えさせる。○①話題提示、②～⑨たんぽぽのちえ、⑩まとめ等、全体が「はじめ-中-終わり」になることを示す。 | ○ワークシートに記述させる。○前時までに使用した絵や写真などを表示させて内容を捉えやすくする。評 ①・⑩に何が書かれているのか考えを持てる。 |
| まとめ | 7.ワークシートに「はじめ-中-終わり」を書き入れ、文章構成の基本を確認する。説明文は、「はじめ-中-終わり」の形で書かれている。 | ○①～⑩段落ごとに整理された板書に「はじめ-中-終わり」を書きたす。 | ○電子黒板に文章を提示して「はじめ-中-終わり」を明確にする。 |

（３）板書計画（省略）

７，資料～ワークシートなど（省略）

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。　　　　　　【文責：研究員 福島　剛(松恵小）】